

憲法九条の会・岩岡 ニュース 第104号

2016・6・6発行

発行人 堀口照美／編集人 白井篤子

「憲法9条の会・岩岡」第10回総会と、お話と映画のつどい「沖縄で今、何が起きているのか」を開きました

5月20日(金)午後、岩岡連絡所多目的ホール(大)で上記の集まりを開きました(16人参加)。2016年度の役員は次の方に決まりました。会長・堀口照美(再)、事務局担当・白井篤子(再)、会計・和田友子(新)。当日の資料、DVD「標的の村」(ダイジェスト版)が入用の方は事務局にご連絡下さい。

堀口照美会長のあいさつ



もう10年会長をやっております。カビが生えております。来年こそはそちらの席に座ってお話を聞きたいなと思っております。

プログラムの一番上に、「日本を「戦争する国」に変えないために」「未来ある子どもたちを戦場に送らないために」とありますが、私はこの下にもう一つ加えてほしいと思います。「戦いが始まる時、まず失われるものは若者の命。そしてそれは決して報われることはない」。これは映画(深作欣二監督)のラストシーンの言葉です。私には子どもが6人、孫が10人いますが、この子たちの命が一番先に失われる、これほど私にとって残酷なことはありません。

この一年はほんとに大切な一年になると思います。政府がどんなに無茶苦茶なことをしているか、どれほど国民を守らないか、でもそういう人を国会に送り出したのは私たち国民、私たちの責任なんです。だから今度の選挙はすごく大事だと思います。私たちの暮らしと命を守るという一番の基本、私たちの思いが伝わる人を国会に送りましょう。

映画「標的の村」を見ると、日本国がいかにも日本人を守らないか、私たちの意思がいかにも伝わらないかがよく分かります。玉城さんのお話も映画もしっかりと自分のこととして受け止めたいと思います。

玉城洋子さん(沖縄在住の歌人)のお話

元アメリカ海兵隊員の軍属による女性遺体遺棄事件

昨日、うるま市で又もか!という事件が起こりました。私は糸満市で暮らしていますが、殺された20歳の島袋さんが住んでいた嘉手納基地に近いうるま市は私の故郷です。うるま市では、永山由美子ちゃん(6歳)事件(1955年)、宮森小学校米軍機墜落事件(1959年、小学生11人、住民6人死亡)が起こっています。操縦士は脱出しましたが、ジェット機が私の上を飛び、焼け焦げた子どもたちが連れていかれるのを目撃しました。私自身、小学6年生の時、あわやというところで難を逃れたという経験があります。婦女暴行というようなことはなかなか口には出せません。口を封じられて隠して生きてきた人が多かったのではないかと思います。3月にも観光でホテルにいた女性がキャンプシュワブの米兵に暴行された事件がありました。米兵が起こした事件は、日米地位協定で、特に公務中に事件を起こした米兵は情状酌量され、米兵に有利なように裁判が働くんです。だから事故を起こされ、被害を受けた人が泣き寝入りをするのが、特に復帰前には多かったと思います。



友人の玉城洋子さんを紹介する南輝子さん



沖縄戦

沖縄は今梅雨の時期ですが、71年前の4、5、6月、沖縄地上戦がありました。それはもう世界で類を見ないほどの残酷な戦争であったと言われています。親子で殺し合った集団自決、泣き声で敵に見つかるからと、ガマ(壕)の外に捨てられ、殺された赤ん坊。「1メートル四方に50発の弾降って風化できるか沖縄の戦」(玉城洋子さんの歌)。沖縄戦が一番激しかったところが糸満です。ひめゆりの塔、戦没者の碑「平和の礎」がある平和記念公園には、毎年大勢の方がお参りに来られます。

辺野古に基地は作らせない

辺野古は沖縄でも殆ど知られていない時期がありました。辺野古の闘いが始まってから20年経ちましたから、今は知らない人はいません。山も海も川も大変美しい所です。「二見情話」はずっと歌い継がれています。

キャンプシュワブは名護市と宜野座村にまたがる在日米軍海兵隊の基地です。この基地のゲート前に座りこみ、辺野古新基地建設阻止の抗議行動を続けています。県内だけでなく、県外から国外から、最近では安保法制の問題で若者たちが大変関心を持ってやってくるようになりました。いろんな人種が混じって抗議をしているのが、今の辺野古のキャンプシュワブのゲート前です。毎回「沖縄を返せ」を歌っています。

1995年、少女暴行事件に怒った県民が8,500人の大抗議集会を行い、翌年、普天間基地撤去が締結されました。私たちは皆、普天間基地はどこかにもっていかれるんだなと思いましたが、ふたを開けたら辺野古です。たらい回しです。皆ほんとに憤慨しました。沖縄戦を体験したおじいやおばあが、あのむごい、惨めな戦争を再び子や孫に体験させてはならないとゲート前で闘っています。

辺野古のすばらしいサンゴ、美しい海もジュゴンの命も人間の命も脅かして、戦争に使うための基地を作ろうというのが日米の考えです。国と県双方が提訴した裁判は、現在は和解して工事は中止されていますが、今後国がどんな手でやってくるか、どんな隙間から入ってくるかよくわかりません。安倍政権はどうしても辺野古だと言っていますから、私たちも絶対作らせない、作らせてしまったら私たちの責任だと思って闘っています。私にできることは、短歌を作って、皆と一緒に絆を作って闘っていくことです。辺野古の闘いはこれからも続くと思いますが、なかなかこちらには伝わりません。何とか伝えたいと今日こんな風にお話できてとても有り難いと思っています。

こんなことが人間の社会で許されていいのか！ —閉会のあいさつ 川田隆一さん—

沖縄を捨て石にして、住民の4分の1が死ぬという戦争を続けた日本軍、自ら住民の土地を奪っておきながら辺野古が唯一の解決策だというアメリカ、アメリカ言いなりの日本政府。辺野古に基地を作らせることがあれば日本の民主主義は死ぬ。沖縄の皆さんが楽天的に闘っているのに敬意を表すると同時に、私たちも憲法9条を守り、立憲主義を取り戻すために全力をあげて頑張らなければならないと思います。

お礼とお知らせ

- ①総会当日、「沖縄の闘いと熊本大震災」にカンパをお願いしたところ、4,000円集まりましたので、折半して、2,000円は玉城洋子さんにお預けし、2,000円は熊本に送りました。玉城洋子さんから「憲法9条の会・岩岡」に10,000円カンパをいただきました。有難うございました。
- ②「戦争法の廃止を求める統一署名」は、5月末現在、627筆集まっています。目標の2000万筆に対し、1200万筆強集まっているようですが、引き続き6月末まで取り組みますのでご協力よろしくをお願いします。

第99回世話人会

とき: 2016年6月17日(金)13:30～ ところ: 岩岡連絡所多目的ホール(小)

第10回総会の総括、2016年度の会の活動、10周年記念行事について話し合います。どなたでもご参加下さい。

—「憲法9条の会・岩岡」事務局 白井篤子 ☎078・967・2758—

沖縄戦 1945年3月26日—6月23日	
交戦勢力	
大日本帝国	アメリカ合衆国 イギリス
戦力	
116,400人	548,000人 (うち上陸部隊) 183,000人
損害	
県外出身死者・行方不明者 65,908人	アメリカ軍死者・行方不明者 14,006人
沖縄県民死者・行方不明者 122,228人 (うち民間人死者) 94,000人	アメリカ軍戦傷者 72,012人 イギリス軍死者 82人